



「今月の祈り」

天地万物の造り主、すべてに命を与え、生かし給う天におられる聖なる神よ。主の日の朝、天に召されたすべての聖徒と共に、御堂に集う私たちはあなたの御名を賛美いたします。

あなたがお創りになった木々の彩りが少しずつ変わるように、私たちの心と体も変化していきます。老いることで豊かに実を結ぶ人生でありたいと願っていますが、自らの変化を受け止めきれぬほど私たちは強くありません。いつまでも古い自分にこだわり、新しく変わっていることを認めようとしません。自分の回りに起こる小さな変化にも取り乱し、その違いを戻そうと躍起になって苦しみます。そして、その苦しみと痛みこそが我慢や寛容、柔和と謙遜という心のしなやかさを失っている自分の変化であることにも気づけないのです。そのような頑なな

私たちだからこそ、これまでの自分の大切にしてきたこと、当たり前と考えていた事の一切を否定される死という現実から目をそらしています。

この世の生と死を超えて私たちとの永遠の命の関係を結んで下さる神よ。この聖徒の日・召天者記念礼拝において今一度、生と死の厳粛な現実を通して私たちに語りかけて下さい。あなたの深い慈愛を信じ、死の前にたじろぐ私たちが勇気を与えられ、暗闇の中に消えることのない、唯一の光を導きとして歩み続けることが出来るよう導いて下さい。これまでの人生を後悔したり否定したりするのではなく、悔い改めという大きな方向転換によって復活を信じる方へと導く福音を、喜びの知らせを聞かせて下さい。この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によっておささげいたします、アーメン。

日本キリスト教団
北千里教会

牧師 宮岡 真紀子

〒565-0873 大阪府吹田市藤白台4丁目5-10

電話/Fax (06) 6834-0978

郵便振替 00940-2-131583

口座名義 日本基督教団北千里教会

kitasenri.ch@gmail.com

<https://www.kitasenriyokai.info/>



教会員のページ

「柴田康二さんの思い出」

尾形丈二

初日、柴田さんにお会いした時の印象は「どうお話しすべきか？」 今もよく覚えています。それは「大物で真面目な方。」ということです。自分が過ごしてきた商売の世界では慎重に接しなければならないタイプの人物。何しろ立派な頭脳をお持ちで、知恵がぎっしり詰まって何事も見抜くような目をしておられました。それが少し話させていただくと何と気さくな方、世間の俗事にも通じておられて、ユーモアたっぷり。どんなお仕事にたずさわっておられるかは分からなくてもいつも朗らかで話題豊富。唯一の欠点はお話が始めると留まる所知らずで、そのチャーミングな魔手から逃れることの難しさでした。

お別れして12年。その時分かったことは、歳の差がたった二つという事でした。

「岡部芳子さんを偲んで」

堀河昌子

1980年に北千里教会で中谷牧師のもと受洗した私にとって、岡部芳子さんは近寄り難く、信仰の大先輩を遠くから畏敬の念を持って見守っている存在でした。

夫である岡部年明さんの人生に深く寄り添ってこられたと拝聞しています。妻として、社会人、経済人、信仰の伝道者として働いてこられた夫を見て、柴田記子さん、霜越哲子さんなど4人のお母さんとして家庭を守り、自らも信仰者として教会、婦人会の活動に深く関わってこられたと印象深く受け止めています。

私自身近くでお話しできたのは、教会学校の教師を長く奉仕しておられた山口先生が引っ越しで、関東に帰られることで、長い間クリスマス会、お餅つきに岡部さんが子供たちの成長を温かく見守り、祈りを持って支えてくださっていることへの引継ぎの協力のお願いの時でした。優しく接してくださったことを思い出します。

「岡部年明さんを偲んで」

宮阪久恵

岡部さんが亡くなられ、40年が経ち、知った方々が少なくなり、私が岡部さんを語るお役目をいただき感謝です。初めて、北千里教会の礼拝に出た時、最前列に座っておられ、礼拝中姿勢を崩さずきちんとした背広姿、背中で礼拝の守り方を教えてくださっているのが印象的でした。礼拝後、説教に対する思い、仕事について、人間関係についてなど話されていたことを思い出します。礼拝では厳しい方でしたが、家庭集会などでは温厚な顔立ちで、にこやかに一人ひとりを迎えてくださり、いつも真司のことを気にかけて下さり、来てよかったと何度思ったことでしょうか。又たくさんのきめセリフを残してくださりました。「聖書はうそを書いてありません。」、「神さまの愛はどんなところに現れるかわかりません。」、「とにかく教会に来ることです。騙されたと思い、とにかく来ることです。」

私は岡部さんの愛唱聖句「神は愛なり」のセリフを胸に抱いて歩みたいです。